

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

■新規受託項目

- [2332] total P1NP(I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド)
※検査要領の詳細は裏面をご参照下さい。

■受託開始日

- 2015年4月20日(月)

- 当該検査の受託開始に伴い、下記検査の受託を中止させていただきます。

| 項目コード | 検査項目名 | 中止期日 |
|-------|--|---------------------------|
| 4145 | インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP) | 2015年9月29日(火) をもって受託中止 |

以上

total P1NP (I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド)

I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P1NP)は分子量35,000の細長い形状をした蛋白質で、血中に単量体や三量体として存在しています。I 型プロコラーゲンが骨芽細胞内で合成され細胞外に分泌された後、I 型コラーゲンとしてコラーゲン線維に取り込まれますが、その際に切断されたC末端プロペプチド(P1CP)とN末端プロペプチド(P1NP)が血中に放出されます。これらの大半は骨組織に由来するため、骨形成マーカーとしての有用性が確認されています。

P1NPはこれまでの骨基質の成熟および石灰化の段階で出現する骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)やオステオカルシンに比べ、I 型コラーゲンの生成過程で産生されるため、骨形成のより早期の指標として有用な骨形成マーカーです。また、骨粗鬆症治療において使用する破骨細胞の活動を抑制するビスフォスフォネート製剤および骨形成促進剤のPTH製剤による治療効果の確認やモニタリングに適していると考えられています。

本検査は、従来のRIAで測定するIntact P I NPがP1NPの三量体のみを検出していたことに対し、三量体と単量体の両方を検出します。また、RIAとの相関は良好で、ECLIAにより専用の自動測定装置で測定するため、non-RIA化と検査所要日数の短縮が可能となります。

■検査要領

| | |
|----------|---|
| 項目コード | 2332 |
| 検査項目名 | total P1NP (I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド) |
| 検体量/保存方法 | 血清 0.3mL *1 (EDTA血漿も検査可) / 冷蔵 |
| 検査方法 | ECLIA |
| 基準値 | 男性(30~83歳) : 18.1~74.1 μg/L 女性 閉経前(30~44歳) : 16.8~70.1 μg/L 閉経後(45~79歳) : 26.4~98.2 μg/L |
| 所要日数 | 3~5日 |
| 検査実施料 | 170点*2 ([D008]内分泌学的検査「26」I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P I NP)) |
| 判断料 | 144点 (生化学的検査(Ⅱ)判断料) |
| 備考 | *1: 溶血の影響により、測定値が低値になる可能性があります。 *2: 保険適用条件 骨型アルカリホスファターゼ(BAP)、Intact P I NP、ALPアイソザイム(PAG電気泳動法)及びtotal P1NPのうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。 |
| 検査場所 | LSIメディエンス (→1) |

[注] 当該検査の受託開始に伴い、[4145] インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P I NP)は2015年9月29日(火)をもちまして検査受託を中止させていただきます。

■参考文献

日高好博: 医学と薬学, 70(2), 357~365, 2013.